

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 恵那高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和7年11月6日(木) 13:00～15:00
- 3 開催場所 恵那高等学校会議室
開催にあたり、委員による授業参観(SSH研究発表交流会)を実施した
- 4 参加者

会 長	伊藤 勝彦	恵那市議会議員 元中学校長
副 会 長	鎌田 基予子	元恵那市教育委員
委 員	秋山 浩司	東海神栄電子工業株式会社代表取締役社長
	新井 麻美	恵那くらしビジネスサポートセンター
	阿部 伸一郎	本校同窓会会長、セントラル建設(株)社長
	岡田 庄二	恵那市教育長 (欠席)
	大崎 大地	本校PTA会長 (欠席)
	西尾 新	恵那市立恵那東中学校長 (欠席)
	蜂谷 明子	蜂谷医院医師
	本多 京子	本校卒業生

学 校 側	森岡 孝文	校長
	永瀬 雅彦	事務長
	丹羽 静	教頭
	粥川 責也	教務主任
	渡瀬 佳吾	生徒指導主事
	林 正幹	進路指導主事
	石原 泰三	保健主事
	野村 毅	探究企画部長
	佐々木俊哉	探究理数科部長
	原田 健	研修主任

5 会議の概要(協議事項)

(1) 恵那高校の教育目標について(確認)

(2) 令和7年度 岐阜県立恵那高等学校 生徒及び保護者等を対象とするアンケート結果について

①教頭②教務部(含む研修部)③生徒指導部④進路指導部⑤保健厚生部⑥探究企画部
⑦探究理数科部

・アンケート結果について分析説明を行った。

意見 1 : I C T の活用について、生徒の学力に有効であるのか。

⇒メタモジという教育ソフトが導入されており、グループ学習などで学習内容を共有する際有効である。また、探究学習において、すぐにインターネットで検索しない指導が続けている。A I をどう活用していくかが今後の課題である。

意見 2 : 生徒会のインスタグラムが本校の広報として効果的である。保護者もリアルタイムで見ることができて安心である。

意見 3 : 今年度初めての学校祭体育の部が屋内で開催されたが、命の危険がないことがよい。生徒会や体育委員の運営がよい。

意見 4 : 地元の広報誌への行事の紹介をしていくとよい。

意見 5 : I C T を有効に活用できない生徒が出てくるのではないのか。

⇒生徒によって格差が出てくる可能性がある。探究学習や教科授業を通して、有効に活用できる生徒を増やしていく。

意見 6 : A I は便利であるが注意して使う必要がある。正しい使い方、正しい判断ができる力をつけていってほしい。

⇒本校の探究学習において、生徒それぞれオリジナルな体験を通し、A I からは得られない力も育んでいきたいと考えている。

意見 7 : 体罰やハラスメントにかかわる質問に対し、D (全くあてはまらない) が数パーセントあるがどうなのか。

⇒別の調査では体罰やハラスメントについては報告されていない。体罰やハラスメントが起こらないような取り組みをしているが、今後もDの回答が0パーセントになるよう努力していく。

意見 8 : 「高1 ギャップ」は今後も続くと考えられる。逆にギフテッドの子もいるので、本校の生徒が学んでいる探究学習を小中学校でもできるとよい。

意見 9 : 「S S H 研究発表交流会」において、しっかり発表ができており、日々の積み重ねが感じられた。また、教師からの適切な助言も大切である。

意見 10 : 海外研修の費用はどのぐらいかかるのか。

⇒7泊8日で37万円程度を想定している。恵那地球塾から一部支援することを考えている。生徒にとって海外研修の経験は重要であり、費用について保護者にも理解を求めている。

意見 11 : 学校の役割として、学力を伸ばすだけでなく、マナーや常識を教える場として大切になっている。

意見 12 : 長期的にこのアンケート結果を蓄積し、今後の学校経営に生かしていくことは重要である。

6 会議のまとめ

「生徒および保護者を対象としたアンケート結果」では、おおむね高評価を得ており、多くの委員から本校の取組みに対する理解と支持が示された。今後も各分掌や担当において、アンケート結果を踏まえた改善に努める。また、本校の教育活動を広く周知するため、ホームページやSNSに加え、新聞社などへの情報提供も積極的に行う必要がある。さらに、探究学習の深化を図るため、デジタル機器の整備に加え、A I やI C T の効果的な活用について、先進校の視察や外部機関との連携を通じて研究・研修を進める。加えて、体罰、ハラスメント、いじめの防止に向け、生徒同士、生徒と教員、教員同士の円滑なコミュニケーションを重視していく。